

海部郡沿岸海藻植生調査

團 昭紀・吉見圭一郎

近年、大型海藻の減少が県南海域で問題となってきた。また、これら植物を餌とするアワビ類の減少傾向もあり、藻場の減少が、これら生物の資源量の低下に関連があることが懸念されている。大型海藻の消長は、水温などの海洋環境の変動により影響されると考えられるが、長期間にわたる海藻植生の変化をモニタリングすることにより、どのような過程をたどり「磯焼け」になるのか環境要因をあわせ考察することは、今後の藻場造成等の事業を行う上で重要である。このため、今後 10 年間、定期観測地点のモニタリングを行うこととした。平成 11 年度は、定期観測地点設定の予備調査を行った。

方 法

1) 調査日及び調査地点

- | | | |
|-----------------------|-----|--------|
| (1) 平成 11 年 6 月 16 日 | 牟岐町 | 古牟岐地先 |
| (2) 平成 11 年 6 月 19 日 | 由岐町 | ウメトラ地先 |
| (3) 平成 11 年 7 月 23 日 | 由岐町 | ウメトラ地先 |
| (4) 平成 11 年 10 月 20 日 | 牟岐町 | 砂美の浜地先 |
| (5) 平成 11 年 10 月 21 日 | 牟岐町 | 小島の浜地先 |
| (6) 平成 11 年 11 月 18 日 | 牟岐町 | 古江地先 |
| (7) 平成 11 年 11 月 18 日 | 牟岐町 | 大戸地先 |
| (8) 平成 11 年 11 月 30 日 | 穴喰町 | 那佐のワンゴ |
| (9) 平成 11 年 12 月 9 日 | 由岐町 | 鹿の首崎地先 |

2) 調査方法

各調査地点とも、基本的に汀線付近から沖へ 100m ほど調査ライン（計測ロープ）を伸ばし、潜水によりライン周辺の海底地形及び海藻植生を記録した。また、1m 水深ごとに 1m の方形枠を置き、海藻と動物を採取した。また、水中写真も撮った。

結 果

1) 平成 11 年 6 月 19 日

牟岐町 ウメトラ地先(図1の)

由岐漁港外防波堤を出て、田井ノ浜よりの場所。水深 5m までは砂地の底質に岩が散在している。5m 以深は砂地の海底となっている。水深 5~7m の範囲に、自然石及びコンクリートブロックの囲い礁が設置されている。

水深 0~2m の範囲の岩礁上には、ホンダウラ類の豊かな植生が見られる。水深 4m から立ち上がる岩礁は、頂端部付近にのみトゲモクとアラメの大型褐藻が生育するが、全体的にはヘライワズタ、ウミウチワ、マクサが疎生、点生する。水深 5~6m の投石上にはマクサが優占していた。水深 6~7m の囲い礁上には、ヨレモクモドキ、カジメが優占する植生が見られた。

2) 平成 11 年 10 月 20 日

牟岐町 砂美の浜地先(図1の)

水深 0~6m は岩礁帯で構成される。水深 0~4m はヒジキ、ヨレモク、アラメ、オオバモクが密生している。4~6m では大型海藻は無くなり、石灰藻のみとなり、ムラサキウニが目立つ。6~7m は砂地の底質上のところどころ転石帯が存在する。転石には 5cm 程度の高さの小型のアラメが生えることもあるが、石灰藻に被われている。

3) 平成 11 年 10 月 21 日

牟岐町 小島の浜地先(図1の)

水深 0~3m は岩礁帯で構成される。3~4m では、砂地の底質上に転石が多く存在する。岩礁上部はヒジキが、下部はアラメ、オオバモク、ヤハズグサが点生する。3~4m の転石帯にはアラメ、オオバモクが生えていることもあるが、ほとんどが無節石灰藻である。転石上には浮泥はなく、砂が薄く被っている。転石下には、ウニ、トコブシの稚貝が多い。

4) 平成 11 年 11 月 18 日

牟岐町 古江地先(図1の)

水深 3~6m に、砂地の上に 2 トン自然石を 2 段積みした投石帯がある。3m 付近には天然岩礁もある。天然礁にはホンダウラ類が密生する。自然石上は浮泥に被われ、石灰藻が優先する。コンクリートブロックの囲い礁上には、ホンダウラ類、小型アラメ、ウミウチワが密生する部分も南る。水深を問わず、囲い礁には投石に比べ海藻が多く生える。

5) 平成 11 年 11 月 18 日

牟岐町 大戸地先(図1の)

牟岐漁港南側外防波堤を出て、仏崎までの間。小さな湾であるため静穏度が高い場所である。水深 2~4m は、砂地と岩礁が交互に見られる場所である。岩礁にはアラメ、オオバモクが優占している。また、場所により淡水の影響が見られ、この範囲のアラメの活力は良好に見えた。水深 3~4m に生えるアラメは茎だけとなったものが目立った。水深 4m 付近の砂地には、0.4~0.7 トンの投石が見られ、表面は有節石灰藻と砂に被われていた。

6) 平成 11 年 11 月 30 日

穴喰町 那佐のワンゴ (図 1 の)

調査地点は閉鎖的な小さな湾の入り口付近。調査ラインは、海面に出た岩礁基部から岩盤部分、及び砂地上の転石帯に設定した。岩盤斜面上は、有節石灰藻が被う。ムラサキインコの群落が被う部分もある。岩盤及び転石上には大型海藻は見られない。しかし、転石上にはホンダワラ類(フタエモク?)の基部のみが残っているのが観察された。砂地上にはナマコが、転石にはシラヒゲウニが多く生息。

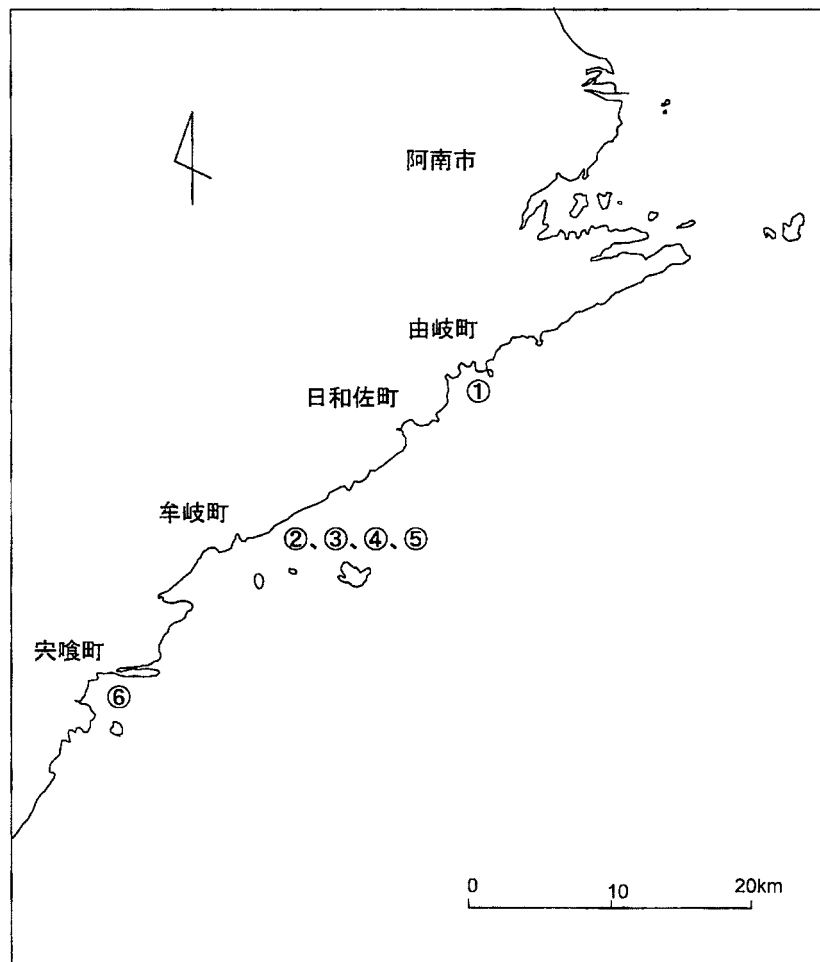


図 1 海藻植生調査地点図